地を除き９団地41棟64戸であり、そのうち政策空家が23戸、全体の入居率は64・1パーセントとなっている。

【庁舎改修の諸問題について】

問 住民への説明会の開催を予定しているか。

答 増築工事および本庁舎改修工事の計画が大体具体化してきたので、住民の皆さんにご理解をいただくため、可能な限り早い時期に説明会を開催したいと考えている。

問 検討委員会の開催状況と、その検討内容および結果について

答 庁舎改修検討委員会は、平成23年７月に第１回目を開催し、それを含めて平成23年度中に４回、平成24年度中に６回、平成25年度はこれまで２回の計12回開催している。

検討委員会においては、平成24年度の途中までは、庁舎の増築・改修について、職員からの意見を設計に反映させることを目的として、協議・検討を進めてきたところである。

そして、平成24年10月から、その検討結果を反映させた設計内容について、「鬼北町庁舎現況調査及び再生基本計画報告書」に基づいたアントニン・レーモンドの設計思想の特徴が忠実に設計に反映されているかという観点から、愛媛大学の曲田清維教授をはじめ６名の先生方を委員とする「鬼北町庁舎設計監修委員会」においてご審議をいただいた。その結果、増築棟の面積、景観、町民スペースの確保の点等でご意見を賜り、本庁舎の文化財的配慮を再認識した上で、設計の見直しを行い、現在に至ったところである。

設計の見直し後は、庁舎改修検討委員会において、文化財である本庁舎の景観を阻害することなく、省スペースな増築棟の中で、これからの行政のあり方も含めて効率的に業務を行う方法等について検討を進めている。

問 改築と改修事業費の対比をもう一度示して説明できるか。

答 まず、増築工事および本庁舎改修工事を行った場合の工事費であるが、現在増築棟の設計のみほぼ完了しており、設計金額は概算であるが本庁舎と一体利用する浄化槽や受変電設備等を含めた工事費合計は、税込みで約３億１千万円を見込んでいる。また、本庁舎改修工事については、現在設計中であるため極めて大まかな数字しかないが、工事費は税込みで約４億２千万円を見込んでいる。

また、新築した場合の工事費については、参考として、近隣の市町の中で木造の庁舎を新築した高知県の梼原町の例を申し上げると、梼原町の本庁舎は、木造一部鉄筋コンクリート造２階建、延床面積２，９７０㎡であり、本体工事費が税込みで11億８，７５０万円となっている。

問 本庁舎を改修とする理由について

答 庁舎は、言うまでもなく町行政を執行していくうえで中枢となる施設であるので、町行政を預かる立場の町長として、就任以来、新たな情報も含めさまざまな情報を基に庁舎問題を考えてきたところである。

これまでもご説明しているとおり、本庁舎は適切な耐震改修をすることにより引き続き庁舎として十分に使えること、経費については、先ほど申し上げたように、まだ詳細が煮詰まってないが、増築部分を含めても同規模の建物を新築するよりは経費が安くつくこと、また我が国の近代建築の特徴をよく備えた建物であり建築史的価値は極めて高いと評価されていることなどを総合的に判断して、現在の取り組みを進めているところである。

◆渡　邊　眞　次　議員

【少子化の中での学校教育について】

問 当町の学校教育の状況と今後の方針について

答 鬼北町においては、現在のところ小中学校合わせて児童生徒数は８２２名、教職員数は１１８名である。

現状としては、少人数集団の学校でのその特性を生かし、児童生徒の個性や特性に応じた個別指導や異学年との交流などで、学校ぐるみの特色ある活動ができており、その成果も上がっている。また、地域の方々との交流活動によって、地域の良さや感謝の気持ちを育てる機会が多くなっているのも間違いないところである。

なお、平成28年度までは全校で30人を切る学校はないと思われるが、近い将来、生まれてくる子どもの数から統廃合の検討協議が必要になることは避けられない。その場合「児童生徒にとってどのような教育の在り方が最も望ましいか」ということを一番の基準に、保護者や地域の皆さんのご意見等を聞きながら進めていきたい。

問 日吉小中学校の小中一貫教育の推進状況について

答 重点的に取り組んでいるのは、①地域素材や地域活動を積極的に取り入れた「郷土学」、②専門的知識を生かした「乗り入れ授業」、③運動会など「小・中合同の活動の実施」、④小・中教員の「合同研修会による学び合い」等である。

問 小学校での複式学級の可能性および複式学級に対する評価について

答 学級編成基準は決まっているが、本年度は教頭が学級担任をしたり、加配教員が配置されたりすることによって複式を解消している現状がある。

また、複式学級に対する評価に関しては、まず直接指導の中で学習の方法など自主学習を支える基礎・基本を学び、間接指導のときは、じっくりと考え、自ら問題を解決する時間とすることで学力低下はないと考えている。